



**進学** 和歌山県立医科大学  
医学部

⊕ 江川遥都先輩

**出身** 桐蔭高校

**クラブ** サッカー部



**進学** 京都工芸繊維大学  
工芸科学部

⊕ 西山直杜先輩

**出身** 桐蔭高校

**クラブ** サッカー部 (キャプテン)

**AC(岡・湯川)：** 合格おめでとうございます！

**江川・西山：** ありがとうございます。

### 志望校を決めたのはいつぐらい？

**西山⊕** 僕は結局、共通テスト終わるまで決めきれなくて。でも学科は化学系がいいなっていうのがありました。でも研究に興味があったわけでもないの、工学系かなってなんとなく。で、最終2校に絞った時にだいぶ迷ったんですけど、親と相談して決めました。今はそこを選んでよかったなって思ってます。理系単科大学っていうのが就職にも強いって聞くし。僕は大学で遊びたいとかいうタイプではないから、真面目に勉強できそうだから良かったなと。

**江川⊕** 僕は、高1・高3の時、最初はずっと教師を目指してて、教育学部ばかり探してました。で、高3になる前ぐらいにだんだん医者もいいなって思い始めて、そこから和医大のこととか調べて。家から近いし、推薦もあるしで、目指そうかなと。

### どうやって大学の情報を調べた？志望校選択で悩んだことは？



**西山** 友達からの情報かな。でもそこから調べたら、入学してから幅広い選択肢があるなと思って。



**江川** 僕は姉の影響ですね。姉から色々聞いて、で、赤本とか見て。あとは、インターネットで調べたり。

**西山⊕** 志望校が決まらないことで悩んだことなかったです。ある程度、学科と大学の候補をあげてた状態で、共通の結果見てボーダーで戦えるか戦えないかで決めるから。志望校が決まらないことよりも、点数が上がらないことの方が悩みましたね。先輩にも、志望校決めたら偏差値5上がるみたいなことを言ってもらったこともあったんですけど、僕にとってのモチベは違って。サッカーを10月の終わりまでやって、でも、模試とかで夏に部活引退した人たちに「サッカーやってるから、仕方ないよな」って言われるのが一番嫌だったので。そこをひっくり返したかった。それがモチベだったのかもしれない。

**江川⊕** 僕もあんまり志望校では悩まなくて。一本で勝負しようと思って。勉強のモチベっていうのはあんまりなかったんですけど、毎日10時間以上勉強しようっていうのはあって。まあ淡々と勉強して、あんまり嫌にはならなかったです。なんかだんだん楽しくなってきました。

**AC 岡：** でもいつも22時まで残って勉強してたよね。そのモチベーションでやりきれもの？

**江川⊕** それは、友達と一緒に最後まで決めて。2人で決めたらもう裏切れないから、ここまでやるって決めて一緒にやってました。

### 友達からの影響は？

**西山⊕** 僕は誰かと一緒にやるってことはなかったです。高1・高2の間に一緒に帰っ

ていた先輩からの影響が大きいですね。本当にすごい人で。その人の話を聞いていたら、やっぱり高1・高2からやっておかないとというのがあって。

**江川⊕** 僕は同じ学年に同じ志望校の人がいっぱいいて、その人がいい点数とったみたいなこと聞いたら、めっちゃ焦るし、そういうところで刺激はありましたね。志望校違う友達とは励ましあう感じで。



### サッカーとの両立は？難しかった？

**江川⊕** テスト期間以外は全く勉強しなかったの、両立できていたかは分からないんですけど。でも、テスト期間に入ったらもうめっちゃ切り替えて。それで成績も安定してました。毎日両立じゃなくて、その期間ごとに集中したらいいのかな。あと、授業は絶対聞かって決めてました。眠くなることもあるけど、大事なところだけはおさえて。テスト期間に入って、さっと通ったら思い出せるぐらいに、授業は絶対聞いて。で、テスト期間は問題を解きまくる。

**西山⊕** 僕は高1・高2と本当に終わってましたね、生活(笑)。高1は朝練あって、整備もあるので6時前には絶対家を出て。



朝練の後に授業で。最低3時間ぐらいは寝てしまって。でも数学と物理と化学だけは絶対起きてた。そのあと部活やって、その帰りに図書館で21時半までいて。やっぱり寝てしまうこともあったんですけど、それでも4STEP(教科書傍用問題集)は絶対に毎日やろうと決めてました。1問解いて寝るとかもありましたけど。でも、毎日絶対図書館行って、21時半以降に家に帰るのが習慣化してました。

**AC 湯川：** 家が遠いとみんな電車を使う子も多いのに、毎日行きも帰りも自転車で。それで勉強してすごかったよね。

### 刺激を与えられた人は？

**西山** ⊕ サッカーを続けて志望校合格したっていう先輩もたくさんいて。それで、僕もそうならないとっていう使命みたいなのはあって。サッカーを最後までやるんだったら、受験も合格するっていう覚悟はいると思ってました。



**江川** ⊕ 僕は、家族や周りが現役合格しているとか、プレッシャーみたいなものもあって。ヤバいなって。そういう刺激はありました。

### 高1・高2で必要なことは？

**江川** ⊕ 高3になるまでに高1・高2のことは、できるようになっておいた方がいい。高3になると、高3の内容と受験勉強があって、その中で復習する時間はあんまりなくて。高3になるとどんどん問題を進めていきたいから、高1・高2の基本とかは、完璧にしといた方がいいと思います。

**西山** ⊕ 僕は志望校が決まらないことで悩んだことはなかったですけど、でも早く決まるならそれに越したことはないと思います。だから、大学について調べることも大事かなと。この大学はこんな学部があって、その学部のその学科行ったらどんなことができ、それが自分がやりたいことなのかどうか。僕はサッカーしかしてなかったから、自分のやりたいことを見つけるっていう時間を全然取ってなかったし。そういう時間を自分はちゃんと取っとけおけばよかったなって思います。

### GES(中学生部)に通塾後、高校ではACに決めた理由は？

**江川** ⊕ 中学でGES行ってて高校は



ACってというのはやっぱり来やすかったです。知ってる先生もいるし。

**西山** ⊕ 僕は高校入ってからの通塾はプランクがあって。高1の時から帰りに海南駅前校の前で湯川先生といろいろ話はしてたけど。でも、高3の3月頃に塾行かないとってなって。2月の模試でヤバかったの。親からも塾行くか？って言ってもらって。やっと「行こう」って思った時に、湯川先生にサテラインの説明をしてもらって。で、時間的なこととかで海南駅前校で考えてたんやけど、湯川先生は春から県庁前校って友達から聞いて。部活して県庁前校で夜まで勉強して、そこから帰るって想像できてなかったから、湯川先生いないんやったらもう行かないって(笑)。でも結局、総体終わったぐらいに湯川先生に声をかけてもらって。やっぱり信頼できる先生がいいなって思ってAC県庁前校で決めました。

**AC 湯川：** 22時まで塾で自習頑張ってる、そこから自転車で帰るっていうのは、すごい生活だったよね。本当によく頑張ってくれたなとは思いますがね。

### 部活を振り返って

**江川** ⊕ 部活中はしんどいこともあったけど、やっぱりみんなで一緒にいたのが楽しかったです。部活に入ったから友達ができた。

**西山** ⊕ サッカーで、自分がうまくいかない時とか、ものすごいしんどかったです。

## インタビューを終えて

西山くんは、サッカーを最後の選手権大会(10月末)までキャプテンとして頑張り、勉強と部活を両立した生徒です。部活も大変だったかと思いますが、練習終了後に塾の自習室に来て集中して取り組んでいました。受験勉強の途中、しんどくなったら弱音を吐きに来てすっきりしてまた勉強に向かうなど、自分をしっかりとコントロールできていたと思います。志望校についても、自分のやりたいことを柱にいろいろと調べたり、ACに相談に来てくれたりし



高3になってからは特に。でも自分が1点とって勝った時は、めっちゃ大きなものを得たなって感じがしました。

### 大学生生活に期待することは？

**江川** ⊕ 授業も自分の好きなように取れるし、やっぱり高校よりもだいぶ解放されるかなと思います。

**西山** ⊕ 僕は1人暮らしが、めっちゃ心配(笑)。和歌山出るのには興味あったけど、いざ出るってなったらめっちゃ心配。

### 大学に入って、その先は？

**江川** ⊕ みんなが心を開いてくれるような医者になりたいです。

**西山** ⊕ 僕は大学入ってからやりたいことを見つけたいです。

### 後輩にメッセージ

**西山** ⊕ 部活に夢中になれるんだったら、部活に夢中になって。いろんなやり方があるから。高校3年間って二度と戻ってこない。だから、何にも変えられないような3年間を過ごしてほしいかなって思います。

**江川** ⊕ 1・2年の時とかは、やっぱり勉強が手につかなかったりってあると思うけど、やっぱりどこかのタイミングで切り替えて。楽しむことも大切やけど、しっかり切り替えて勉強に集中することも大切だと思います。

## Academy Campus

て、最善の道を見出してくれました。大学でも持ち前の明るさと、冷静な判断で化学の道を探め、活躍してくれることを楽しみにしています。

江川くんは、サッカー部で活躍しながらも、高校での定期考査もしっかり点数を取り、見事に第一志望の大学に推薦入試で合格しました。塾では毎日22時まで友人と一緒に勉強をしていました。本当に素晴らしい集中力と、努力を続ける忍耐力を持った生徒でした。推薦入試に必要な自己推薦書「自己を語る」を読ませてもらった時に、絶対に素晴らしい医師になると確信しました。将来は、和歌山の医療を支える医師となり、活躍してくれることを願っています。

ACカウンセリングスタッフ

岡 哲司・湯川 晃至